

国語 第3学年 つたえたいことをはっきりさせて、ほうこくする文章を書く こう 授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書の令和6年度版年間指導計画に基づく1学期の授業案。教材本文・台詞・挿絵・問題文は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

調べた仕事の工夫から伝える中心を選び、事実と理由を対応させて報告する。学習の記録は、工夫の材料分類表と報告文である。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕 B 書くこと(1)ア	ア 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕 (1)ウ	ウ 漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕 (1)カ	カ 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。
〔第3学年及び第4学年〕 B 書くこと(1)ウ	ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。

単元の目標

改行のしかたを理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つことができる。（〔知識及び技能〕 (1)ウ）

相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（B(1)ア）

調べた仕事の工夫から伝える中心を選び、事実と理由を対応させて報告する学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

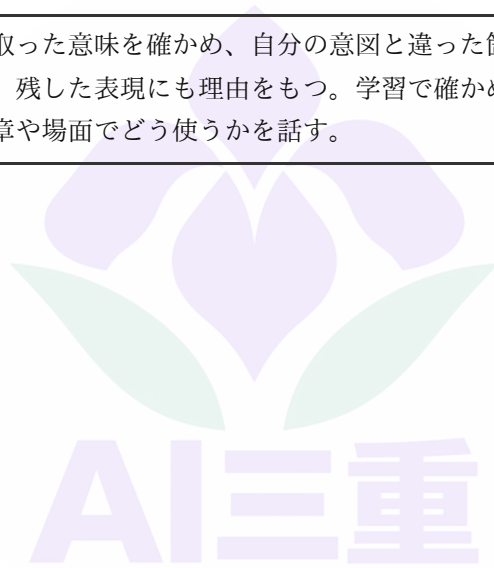
評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①改行のしかたを理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕 (1)ウ）	①「書くこと」において、相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）	①調べた仕事の工夫から伝える中心を選び、事実と理由を対応させて報告する学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書の年間指導計画による全10時間（書10）。総時数は公式資料に従う。各時の配分と本時の選定は、本案による授業配当の提案である。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。 単元の終わりに残す記録を確認め、学習の見通しをもつ。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～5	○学校で利用できる資料や聞き取りから集めた材料を、仕事・工夫・目的に分類する。必要な語や材料を集め、関係を整理する。	知①（言葉・文字・資料の扱いを確認める活動）
第3次	6～9 （本時）	○学校で利用できる資料や聞き取りから集めた材料を、仕事・工夫・目的に分類する。中心にする工夫を選び、事例と理由を対応させて段落を組む。引用と自分の説明を区別し、句読点も確認する。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第4次	10	○読み手が受け取った意味を確認め、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



本時の案

本時の目標：相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（B(1)ア）

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 ○「この工夫を伝えるには、どの事実と理由が必要ですか」 【めあて】調べた仕事の工夫から伝える中心を選び、事実と理由を対応させて報告する。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ仕事でも工夫の目的が違う。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 （ 分）	○「この工夫を伝えるには、どの事実と理由が必要ですか」 学校で利用できる資料や聞き取りから集めた材料を、仕事・工夫・目的に分類する。中心にする工夫を選び、事例と理由を対応させて段落を組む。引用と自分の説明を区別し、句読点も確認する。 読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ仕事でも工夫の目的が違う。 ・自分の予想を調べた事実と分けたい。	資料名や聞いた相手、確認した内容を記録する。未確認の働きや効果は断定せず、再確認の欄へ移す。 想定する難しさ：集めた情報をすべて写し、工夫の意味を説明しない。 評価では、相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にしているかを、工夫の材料分類表と報告文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。（発言・活動中の記録・作成物）
まとめ （ 分）	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 工夫の材料分類表と報告文を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・自分の予想を調べた事実と分けたい。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「この工夫を伝えるには、どの事実と理由が必要ですか」。中央は、工夫の材料分類表と報告文に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

つまずきやすい所と手当て

集めた情報をすべて写し、工夫の意味を説明しない。この難しさには、資料名や聞いた相手、確認した内容を記録する。未確認の働きや効果は断定せず、再確認の欄へ移す。評価では、相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にしているかを、工夫の材料分類表と報告文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

プリントの案

本時の記録 工夫の材料分類表と報告文を残す欄を用意する。教材本文や図を複製せず、自分の言葉や印で記録する。
比べて確かめたこと 最初の考えや表現、友達からの反応、確かめた言葉、最後に選んだ考えや表現を対応させる。書く負担が大きい場合は口述や指差しも教師が記録する。

出典：光村図書 令和6年度版 年間指導計画。教材名・時期・総時数・目標の出典。年間指導計画例 Excel（3年）「3年上巻」89行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/7ff6b471-db8d-470a-968a-a9899624022a/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。保存した公式原文と学年段階・項目を照合。
（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価の観点と記録の考え方。
（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

